

小学校理科における地球領域の重要性

The importance of the earth area about the elementary school science

阿部 國廣 [1]

Kunihiro Abe[1]

[1] 川崎・西有馬小

[1] Kawasaki Nishiarima Ers

2008年1月17日中央教育審議会は学習指導要領の改善についての答申を行った。これを受けて文部科学省は2008年3月末には学習指導要領の改訂を行う。今回の改訂に当たっての重点のひとつに理数系教育の充実があげられている。また環境教育の重視ということも盛り込まれている。今回の学習指導要領の改訂に当たって、日本地球惑星科学連合は理数系学会と連携を図りながら数多くの働きかけを行ってきた。私たちの主張した点が多く受け入れられてはいるがまだまだ十分とはいえない。全地球規模で進行している温暖化を始め数多くの地球環境問題や、日本列島の特殊性から生じる災害問題等に関して総合的に理解し、主体的に判断し行動できる科学リテラシーを備えた国民の育成という点に関して言うならば議論は不十分だといわざるを得ない。これらの問題を解決するための理解と教養は地学（地球惑星科学）の学習を抜きに身につけることはできない。

しかしながら中教審は理科教育において物化生地の4領域が必要だと述べ、今日的課題を解決していくためにも環境教育、ならびに防災教育は必要であると述べてはいるが地球惑星科学の教育がその中核になるという認識には至ってはいない。それは学習指導要領理科に対する考え方を反映している。4領域という領域に縛られ、また単元学習という枠内に閉じ込められた理科教育課程にある。

理科教育において、地球環境問題ならびに自然災害に対する防災、減災の教育をいかにやっていくのか、単元相互に関連しあった理科の教育課程を示すことが重要になっている。これらを包括的にとらえた小学校理科の教育課程を提案する。

今回の学習指導要領の特徴の一つに小・中・高等学校に至る教育内容の接続と系統性を示すということが提示された。私たちが主張してきた大事にしていきたい視点である。国民共通に身につけておきたい科学リテラシーは小・中・高等学校それぞれの階層において身につけられ、スパイラル的に発展されていくものである。その意味において小学校の理科教育における地球科学の教育を軸にそれぞれの階層において実践されていくことを願うものである。